PHP新書「地震予報」読者の皆様へ
「№1778 長期継続大型地震推定前兆変動」原稿校了後の前兆変動変化についての続報

続報 № ４０９

2025.04/04（金曜）15：00 発表

八ヶ岳南麓天文台　電離層モニター観測所　代表：串田嘉男
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1　研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

№1778長期変動 Stage-37特異変動終息 対応地震 明日４月５日 発生の可能性有

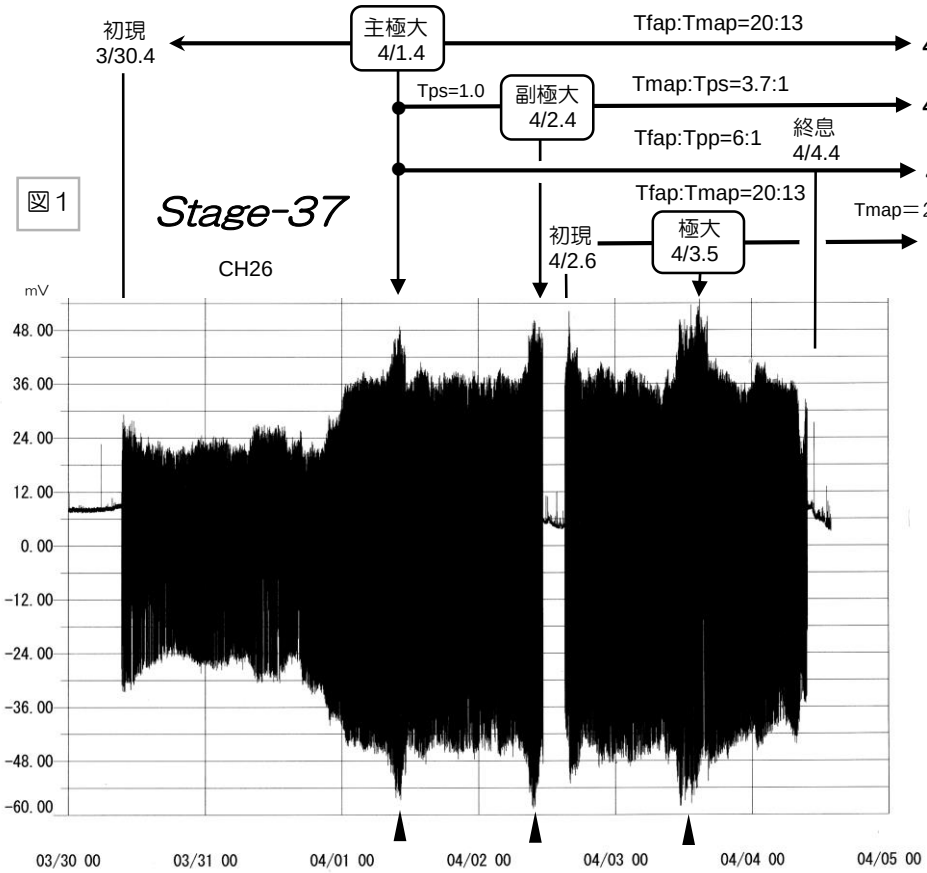


図１

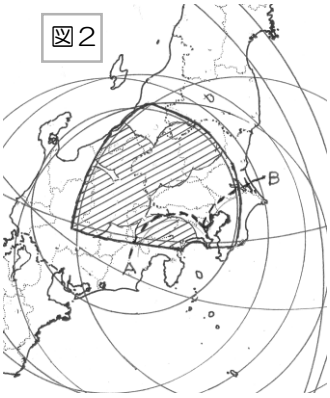
Tfap = 初現～発生
Tmap=極大～発生
Tpp =静穏期
Tps =主・副極大間

4/1.4ピークのあと、4/2.4にもピークを観測。主極大・副極大と認識しました。一度4/2の午前に静穏化しましたが、数時間後に再び特異変動。次のStageの初現で4/5に極大の可能性も考えましたが、4/3.5に極大認識ピークを観測。初現4/2.6 極大4/3.5の認識で4/5を示します。上記内容は公開実験観測情報では既に配信公開済です。

◆№1778前兆変動、Stage-37は、八ヶ岳のCH26の特異変動が主前兆でした。図１のとおり、本日4/4の午前09時45分に静穏化し、通常基線に復帰しました。4/3.5極大認識に対する終息では合いません。CH26と20に同期するPBF特異はまだ出現しており、4/3.5極大に対して明日4/5の未明まで出現して消える可能性があります。

◆本日4/4.4終息を4/1.4極大に対する静穏化と考えますと、他の変動関係と調和します。他に明日極大となる可能性のある明確な変動は出現していないことから、次のStageに移行する可能性は極めて考えにくいと思われます。従いまして、明日の４月５日、対応地震発生の可能性が強く示唆されます。

図２



A～B弧線以南の可能性は極めて低い

●推定領域：図２の太線領域内＝大枠推定領域
図２斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3　または
複合の場合＝M7.3±0.3 ＋ M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：4/5（誤差 4/6 ）
（※考えにくいが上記時期に極大出現の場合や、4/6までに発生無き場合は再考続報）

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。

C) Copyright 2025 YSBO 八ヶ岳南麓天文台